

森川河流域基本計画の成果等の評価 一覧表 (令和2年度)

振興局等	基本計画名	主要な施策の進捗状況	総合的な評価			特色ある活動等	活動団体	
			主な成果	課題	今後の方向性		団体数	事業数
盛岡	盛岡広域管内流域基本計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生き物や人にやさしい川づくり 令和2年度の身近な水辺空間の環境保全等に主体的に取り組む団体は、昨年度から増加し25団体であり目標値を達成している。河川の草刈り団体数について、一定の成果を得ているが、団体数の維持に加え、高齢化の進行に伴う作業中の事故等に注意しながら活動をして頂く必要がある。</li> <li>●環境学習の推進 令和2年度の水生生物調査参加団体の活動回数は39回であり、目標値を達成している。今後も参加の呼びかけ等を継続し、活動数の維持に努めていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生き物や人にやさしい川づくりについては、身近な水辺空間の環境保全等に主体的に取り組む団体数が目標値を達成した。</li> <li>●学校や環境保全団体等が取り組む水生生物調査については、目標値を達成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●森づくりについて、森林ボランティア参加数が伸び悩んでいる。</li> <li>●森・川・里それぞれの活動を繋げる取組(連携強化)が必要である。</li> <li>●環境保全活動団体の中には、団体構成員の高齢化や人手不足等により、活動の継続性が懸念されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境保全活動の活発化を目的とした人材養成の仕組みづくりを行う。</li> <li>●業者、団体、住民参加型の集会を開催し、参加者間の交流を図る。</li> <li>●活動応援キャラクター「りぱ〜るくん」を活用した普及啓発を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域経営推進費を活用し、環境保全活動応援キャラクター「りぱ〜るくん」グッズ(クリアファイル、リフレクター、メモ帳、ぬいぐるみ)を活用した地域の流域保全に係る普及啓発を行った。</li> <li>●環境省地域環境保全功労者大臣表彰 ・盛岡市立下橋中学校(令和2年度・水環境・水資源部門)</li> <li>●県環境保全活動知事表彰 ・一般社団法人いわて流域ネットワーク(令和2年度、環境保全部門) ・鹿妻穴堰土地改良区(令和2年度、水環境・水資源部門) ・川を守る会前郷(令和2年度、水環境・水資源部門)</li> </ul>	54	78
県南広域	アテルイの里 水と緑の推進計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>●植樹、間伐等の森林整備事業 協議会の構成団体と関係機関が実施する森林整備等の活動については、植樹公園や林道等での下草刈りによる周辺環境整備のほか、「企業の森」における間伐や下草刈等の活動が継続して実施されている。 また、東北森林管理局岩手南部森林管理署の働きかけにより、森林ボランティアや企業等による林野巡視活動(動植物保護巡視、山火事防止、不法投棄物回収)のほか、小学生を対象とした国有林フィールドにおける森林教室等の教育啓蒙活動が実施されている。 流域水源地の保全には、次世代を含めた持続的な教育活動が重要となることから、当協議会としても活動周知等の支援を継続している。</li> <li>●水生生物調査などの環境教育の推進 協議会の構成団体と関係機関による環境学習支援として、管内の小中学生を対象とした水生生物調査が実施されている。ただし、令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、一部の水生生物調査やホテル観察会が中止となるなど、影響が出ている。 一方、管内中学校への出前授業(川の防災と環境学習)や小学生を対象とした水辺の安全&amp;カヌー教室など、新たな教育活動への取組も進められている。 また、令和2年度は協議会として奥州市と金ケ崎町の中学生を対象とした「環境保全ポスター」原画の募集を実施し、制作したポスターについては令和3年度にかけて管内の公共施設や教育機関等を対象に配布を進めており、次世代を対象とする情報提供については森川海保全の視点に立った地域活動の基軸の一つとして継続的に実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●協議会を構成する各団体の自主的かつ積極的な取組により、森林整備活動、河川環境保全活動、小中学生に対する環境学習支援が継続して実施されている。</li> <li>●普及啓蒙事業として、毎年度2月に開催している県南圏域「環境交流フォーラム(for SDGs)」については、新型コロナウイルス感染症対策の観点から中止となったものの、代替の取組として管内の小中学生を対象とした「環境保全ポスター」原画の募集を行い、流域協議会総会(令和3年2月12日)における作品審査により選考した作品を基に「環境保全ポスター」を制作し、流域協議会の構成団体と関係機関(流域協議会を構成する関係機関、県南広域振興局各部、奥州市及び金ケ崎町)に配布して掲示を進め、内陸・県南圏の活動から森川海全域の自然・環境の保全に繋げることの意義について、認識の共有を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●森林組合、河川漁業協同組合、ボランティア団体など流域協議会を構成する民間系団体の多くが人員の高齢化に直面し、各団体の本来事業も縮小傾向にある。</li> <li>●民間系団体の一部には環境保全に係る資材や経費の確保が難しいとする意見があるほか、実際に団体自体の事業見直し(廃止)に伴って流域協議会からも退会に至った事例があること(令和2年度は1件)、また、引き続き流域協議会に参加する団体においても新規取組に関する報告が少ないなど、民間系団体自体の体力低下とともに環境保全に係る取組の定型化により活動の停滞が窺える。</li> <li>●社会的課題である「海ごみ削減」「地球温暖化」「SDGs」を視野に入れた流域活動の推進については、流域協議会の構成団体が新たな負担の増加を感じずに参加できることが重要であり、流域協議会の枠を超えた広域での連携が期待される大枠(広域)での活動機会が提供されることが望まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●内陸流域からの自然・環境保全活動の重要性に係る普及啓発を継続して実施する。</li> <li>●胆江地区(奥州市・金ケ崎町)で環境保全活動に実績を有する民間系団体(ボランティア団体等)について掘起しを行い、流域協議会への新規加入を促す。</li> <li>●「海洋ごみ」「地球温暖化」「SDGs」等の社会的課題に向けた活動として、関係機関等との連携の下、小中学校等の教育機関に対する情報提供を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●胆江地域の豊かな水循環を推進する協議会の令和2年度事業として「環境保全ポスター原画」募集を行い、管内4中学校の生徒20名から計20作品の応募があり、この内の10作品について流域協議会長名により表彰を実施した。</li> </ul>	22	22
花巻	豊沢川流域ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●水源の涵養 「花巻のプナ原生林に守られる市民の会」及び地元住民が中心となり、豊沢ダム上流部のプナ原生林の保護活動や子供たちを対象とした自然体験学習を行っているほか、行政や森林所有者、NPO等の民間団体との協働により、間伐等の施業及び植林を実施しており、今後も継続して活動を行う。</li> <li>●親水活動や環境教育の展開 主に子供たちを対象にした川遊び、水中観察及び自然観察、並びに一般を対象としたラフティング及びカヌー指導などの水辺体験が行われている。 また、冬季にも自然観察や雪遊びなどの親子雪上体験も行われており、今後も継続して活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から例年通りの活動が中止となることもあったが、各活動団体において自然保護活動、親水活動等が行われている。また、豊沢川流域清掃活動等の団体間で連携した取組も行われている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●団体が活動するための資金の調達</li> <li>●他の流域との活動連携</li> <li>●新型コロナウイルス感染症の感染対策と活動の両立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●他の流域基本計画が策定された河川流域との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境省域環境美化功績者大臣表彰 ・豊沢川活性化・清流化事業推進協議会(平成28年度)</li> <li>●県環境保全活動知事表彰 ・似内 功孝(平成29年度、自然保護部門)</li> <li>●水と緑を守り育てる活動知事感謝状 ・北上川フィールドドライブクラブ(平成30年度)</li> </ul>	6	31

森川河流域基本計画の成果等の評価 一覧表 (令和2年度)

振興局等	基本計画名	主要な施策の進捗状況	総合的な評価			特色ある活動等	活動団体	
			主な成果	課題	今後の方向性		団体数	事業数
花巻	葛丸川流域ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●河川環境整備や淡水魚の放流事業の実施 地域住民により、河川流域などの一斉清掃活動、夏場の河川敷の草刈等が実施されているほか、葛丸川淡水魚愛護組合によりヤマメの稚魚放流が行われ、葛丸川の清流化を推進し、淡水魚類の繁殖保護に努めた。今後も継続して活動を行う。</li> <li>●親水活動や環境教育の展開 小学校の環境学習の一環として、児童が河川のきれいさや汚れ具合を調べる水生生物調査を行っている。 冬に行われる大瀬川上流のたろし滝の水柱測定は、大人から子供までが参加する地域の恒例行事であり、地域の方々と自然との触れ合いの場となっている。今後も継続して活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「たろし滝保存会」及び「葛丸川淡水魚愛護組合」の活動を中心に、たろし滝の計測や淡水魚の繁殖保護活動等を通して、自然環境保護の啓発を継続実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●他の流域との活動連携。</li> <li>●新型コロナウイルス感染症の感染対策と活動の両立。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●流域全体及び他の流域との連携した取組を促進する。</li> </ul>	●大瀬川上流のたろし滝の水柱測定(大瀬川たろし滝測定保存会)	4	15
	稗貫川流域ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●河川敷の草刈、清掃や淡水魚の放流事業の実施 地域住民により、河川流域などの一斉清掃活動、夏場の河川敷の草刈等が実施されている。 例年、稗貫川漁協が中心となって実施する河川敷の草刈・清掃(春と秋)、稚魚の放流は、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から中止となった。 今後は、感染対策をした上で例年通りの活動を行い、稗貫川の清流化を推進し、淡水魚類の繁殖保護に努める。</li> <li>●環境学習の推進 小学校や子供会では環境学習の一環として、児童が河川のきれいさや汚れ具合を調べる水生生物調査を行っている。 花巻土木センターが主催する「森と湖に親しむ旬間行事」において、湖面パトロールや魚のつかみ取りなどにより次代を担う子供たちに対する啓発を行っているが、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から中止となった。 今後は、感染対策をした上で例年通りの活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から例年通りの活動が中止となることもあったが、できる限りの活動が行われている。 特に、地元の小学校による環境学習は継続的に行われている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●リーダーシップをとる団体等がない。</li> <li>●地元での活動が一般にあまり知られていない。</li> <li>●新型コロナウイルス感染症の感染対策と活動の両立。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●早池峰ダムを中心としたイベントを行い、次代を担う子供たちに対する啓発を継続しつつ、流域全体及び他流域との連携した取組を促進する。</li> </ul>		3	10
	猿ヶ石川流域ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●森林の整備 琴畑高原での森林再生活動である「水源の森プロジェクト」により、水源地の保全に取り組んでいるほか、行政や森林所有者、NPO等の民間団体との協働により、間伐等の施業及び植林を実施しており、今後も継続して活動を行う。</li> <li>●環境保全意識の高揚 単に野鳥の観察だけにとどまらない総合的な自然観察会の開催や、メダカやゼニタナゴの保護活動を通じて、子供たちや都市部の住民にまで、里山の身近な自然と生き物にふれあう機会が提供されており、また、環境保全に関する、小中学生の標語コンクールや写真コンテストの開催などにより、地域の方々の環境に対する理解を深め、環境保全意識の高揚が図られている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から例年通りの活動が中止・縮小されることもあったが、各活動団体において自然保護活動、親水活動等が行われている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●上流下流の連携体制を深めること。</li> <li>●新型コロナウイルス感染症の感染対策と活動の両立。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●猿ヶ石川の上下流域で共通した活動を通じて交流を深めることにより、流域全体の環境保全活動について一体感と広がりバランスを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●県環境保全活動知事表彰 ・NPO法人環境フロンティア遠野(平成29年度、環境保全部門)</li> <li>・イーハトーブ里山水棲生物保存会(平成30年度、水環境・水資源部門)</li> </ul>	16	52
	わが川流域水循環計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>●河川清掃活動 和賀川の清流を守る会が主体となって「河川パトロール及び河川清掃」を年2回湯田ダム上下流域で開催しているほか、流域の各地で、流域協議会の構成団体を中心となって河川敷の草刈や清掃を行っており、プラスチックごみの海洋流出防止に寄与している。また、特定外来種の駆除活動等も行っている。今後も継続して活動を行う。</li> <li>●自然とのふれあい 子供たちが自然にふれあい、その大切さを学ぶ「わんぱく自然教室」や「森林学習」、一般市民を対象にした「自然観察会」などの活動が多数実施されており、今後も継続して活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「和賀川流域のきれいな水循環を推進する協議会」の構成団体によるホタル観察会や清掃活動など各々の取組が定着してきており、構成団体を中心となって情報の発信や、各種の取組を通じて森や川に接する場を子ども達に提供するなど環境教育活動が継続されている。</li> <li>●和賀川の清流を守る会(事務局:北上市)や湯田ダムビジョン推進協議会と連携を図りながら流域の各種の取組に関し、定期的な活動が継続されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●行政と住民に企業(事業者)を加えた形での各種取組が図られるような基盤整備が望まれるが、活動団体が固定化していることから、新たな団体を掘り起こし、流域協議会の構成団体に加えていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現在行われている環境保全事業を継続しつつ、新しい活動団体を掘り起こすとともに、「環境の創造」という視点からの事業を検討していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国土交通省水資源功績者大臣表彰 ・岩手中部土地改良区(平成27年度)</li> <li>●県環境保全活動知事表彰 ・川邊弥生(みんなの地球いわて代表)(平成30年度、地球温暖化部門)</li> <li>●水と緑を守り育てる活動知事感謝状 ・尻平川河川敷環境美化促進協議会(令和元年度)</li> </ul>	18	37

森川河流域基本計画の成果等の評価 一覧表 (令和2年度)

振興局等	基本計画名	主要な施策の進捗状況	総合的な評価			特色ある活動等	活動団体	
			主な成果	課題	今後の方向性		団体数	事業数
一関	いわい地域流域基本計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>●森林の整備等 児童生徒並びに森林ボランティアに対する林業作業体験の支援及び指導を行っている。 また、間伐等による森林整備の推進と、森林病虫害の駆除とその蔓延防止を行っている。</li> <li>●環境教育の推進等 各種団体による清掃活動や自然観察会による環境教育活動により、水環境への理解が深まってきている。 今後は、各種団体の連携を図るとともに、その取組み並びに活動の幅を広げることについて支援していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●協議会やその他活動団体の自主的な取組が徐々に進み、各団体の連携意識が向上している。</li> <li>●対象地域内では水生生物調査など、環境教育の取組が実施されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域のNPO団体等が活動を行っているものの、流域協議会の中核を担う団体又はその代表の発掘と育成が課題となっている。</li> <li>●各団体も指導者は高齢化し、団体への新規加入者が少ないことから、次世代のリーダーへの継承が課題となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対象地域で中心となって活動するNPOの育成と、これらの団体の連携を図る新しい流域基本計画に基づいた、協議会の統合を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境省水・土壌環境保全活動功労者大臣表彰 ・一関市立室根西小学校(令和2年度)</li> <li>●県環境保全活動知事表彰 ・NPO法人北上川サポート協会(令和2年度、水環境・水資源部門) ・一関市立桜町中学校(令和2年度、水環境・水資源部門)</li> <li>●水と緑を守り育てる知事感謝状 ・室根町第19区自治会(令和2年度)</li> <li>●水生生物調査知事感謝状 ・一関市立大原小学校(令和2年度)</li> </ul>	45	116
沿岸広域	釜石・大槌地域流域ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●豊かな森を作るための取組 植樹会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施を見送る団体が多かった。 管内の林業事業体において新規の雇用がないことから、今年度、林業技能者の増加はなかった。今後、事業体に対し、新規雇用、雇用改善につながる働きかけを行っていく。</li> <li>●人と自然との関わりを大切にするための取組 管内の6つの小学校において、水生生物調査を実施。地元の環境アドバイザーの指導、振興局職員の出前講座の実施により調査への参加が定着している。 管内の1団体(ボーイスカウト釜石第2団)が地域経営推進費を活用して環境体験学習を実施。シーカヤックに乗り海岸線の地層等を観察し、ジオパークに対する理解の促進を図り、併せて海岸清掃を実施した。今年度は2団体が同事業を活用する見込み。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●管内小学校の水生生物調査や、地元漁協と地域住民による河川・海岸の清掃活動が定着している。</li> <li>●一部項目を除き、ビジョンに定めた指標については達成できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止を理由に活動を見合わせる団体が見られた。収束までこの傾向は続くものと思われ、活動と新型コロナウイルス対策の両立が課題と考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定着している活動については、活動が継続するよう、必要に応じて助言、支援等を行う。</li> <li>●海ごみ対策の推進につながるような取組について検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●水生生物調査知事感謝状 ・釜石市立小佐野小学校(令和2年度)</li> </ul>	95	127
	大船渡市三陸町地域流域基本計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>●海岸等の清掃活動 漁協、各小中学校、地区公民館等の団体による海岸等の清掃活動については、震災等による事業の中断の影響を踏まえて、当面指標を設定せずに取組を推進することとしている。新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、海岸清掃は5回実施、参加人数は245人であった。</li> <li>●環境教育・環境学習の推進 大船渡市立博物館による生物観察会・博物館スクール受講生徒数(93人:うち三陸町地域からの参加者は13人)であり、子どもたちが地域の自然環境を学ぶ機会となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大船渡市三陸町地域の美しい水環境をつくり守る協議会を1回開催(令和2年11月5日) ・重点施策の令和元年度実績と令和2年度計画を報告。 ・20指標中、目標を達成又はほぼ達成したものは11指標であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●活動団体の解散や新型コロナウイルス感染症の影響等により、個人や団体による地域での活動実態が分りにくくなっていること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の環境保全活動の集約に努めること。</li> <li>●環境保全に関して、地域横断的に活動する人や団体を育成すること。</li> </ul>		17	7
	大船渡湾水環境保全計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>●河川環境の保全 県(土木センター)が河川環境維持活動団体6団体に活動に必要な作業用品等を支給し、のべ898人が河川敷の草刈清掃、支障木伐採及びごみ拾いを行った。</li> <li>●水生生物による水質調査 水生生物による水質調査により、水環境保全について理解を深めた。総参加人数は新型コロナウイルス感染症の影響もあり95人と指標を下回った。引き続き調査の支援や参加団体の掘り起こしを行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大船渡湾水環境保全計画推進協議会を1回開催(令和2年11月27日) ・重点施策の令和元年度取組実績及び令和2年度取組計画を報告 ・55指標中、目標値を達成又はほぼ達成したものは32指標であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大船渡湾の水質については、震災後に一時改善がみられたが、その後、震災前の状況に近づきつつあることから、海水交流及び水質の変化について継続的に監視していくことが必要であること。</li> <li>●環境保全に関して、地域横断的に活動する人や団体が少ないこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大船渡湾の水質の変化を監視し、引き続き関係機関等が連携して環境保全に取り組んでいく。</li> <li>●環境保全に関して、地域横断的に活動する人や団体を育成していく。</li> </ul>		14	23
	気仙川流域基本計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>●森川海をフィールドとした環境活動の推進 住田町民総参加による河川清掃や森川をフィールドとした環境活動が活発に行われているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、森林体験教室開催数が減少した(R1_12回→R2_2回開催)。 陸前高田市の自然観察会は、R1同様5回開催したが、参加者数は減少した(R1_390人→R2_121人)。</li> <li>●自然環境の活用推進 陸前高田市の生出地区コミュニティ推進協議会では、立教大学との林業体験等地域の特色を活かした各種体験活動を実施している。今後、炭焼きやシイタケの植菌体験等も、状況を踏まえて実施することを検討している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●気仙川流域基本計画推進協議会を書面開催(令和2年11月) ・重点施策の令和元年度実績と令和2年度計画を報告。 ・72指標中、目標を達成又はほぼ達成したものは43指標であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●復興事業が継続する地域においては、環境保全に関して取り組む人や団体はまだ多くなく、その環境も十分に整っていないこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●復興事業の進展により、生活環境や流域・海岸の地形的状況等が変化しているため、計画期間中も重点施策の見直し等を行いつつ、協議会の活動や方向性等を検討していく。</li> <li>●復興に関わる人や団体にも環境保全に関する取組みへの関心を高めてもらうなど、多様な主体が活躍できる雰囲気醸成や施策を検討していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「生出地区コミュニティ推進協議会」は、森林資源を活かした地域づくりと交流活動が評価され、令和元年度「ふれあいの森林(もり)づくり」優良市町村等として、国土緑化推進機構会長賞を受賞</li> <li>●水生生物調査知事感謝状 ・陸前高田市立矢作小学校(令和2年度)</li> </ul>	19	30

森川河流域基本計画の成果等の評価 一覧表 (令和2年度)

振興局等	基本計画名	主要な施策の進捗状況	総合的な評価			特色ある活動等	活動団体	
			主な成果	課題	今後の方向性		団体数	事業数
宮古	宮古・下閉伊地域流域ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●森林が適正に管理され、川や海に豊かな恵みをもたらす流域                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・間伐や再造林</li> <li>・植樹活動や森林体験学習</li> </ul>                     管内には自主的かつ定期的に活動している団体が多く、市町村の広報等を通じて参加者を募るなど、活発に活動している。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により活動を自粛する団体が散見された。</li> <li>●美しい自然環境が保全され、人と自然が共生する流域                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域経営推進費事業「いわて三陸の魅力まるごと再発見！」環境学習推進事業</li> </ul>                     管内の2団体に、三陸ジオパークの普及啓発活動等を盛り込んだ環境体験学習の実施を委託し、環境調査、地層や化石の観察等を実施(9月～10月、参加者54名)。</li> </ul> 基調講演や事業委託団体による事例発表を実施することで、環境活動の現状と課題について情報共有・意見交換を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の発生のため中止した。今後も沿岸局全体で環境学習の推進を図るため、委託事業の実施を行う予定である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●流域基本計画においては、4つの目指すべき流域像を掲げており、達成状況を10の指標で評価している。令和2年度はこれらのうち6つの指標について目標を達成した。</li> <li>●地域経営推進費事業により次世代を担う子どもたちの環境意識を高めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新型コロナウイルス感染症の発生により活動を見合わせる団体が散見され、感染症対策と活動の両立が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新型コロナウイルス感染症の動向を見極めつつ、目標を達成していない4つの指標について今後もフォローアップを継続していく必要がある。</li> </ul>		76	81
県北広域	久慈地域流域基本計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>●河川、海岸清掃                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、予定していた活動を中止することとした団体が見られたものの、コロナ禍においても自主的な活動を継続していた団体もまた見られ、令和2年度は延べ23,516人が清掃活動を行った。</li> </ul>                     今後も各団体及び流域の住民が主体的に活動を継続していけるよう、流域協議会等を通じて、活動状況の共有や支援等を行っていく。</li> <li>●水生生物調査、環境講演会                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校や河川保護団体等が水生生物の観察を通じた水質調査を実施することで、環境保全活動の普及啓発に努めた。また、小学校の教員を対象とした「水生生物指導者研修会」を開催することで、教育現場における環境教育の普及啓発を通じた環境保全活動の推進に努めた。</li> </ul>                     さらに、高校生を対象とした環境業務セミナーを開催し、環境分野の仕事の内容・やりがいを紹介することで、若年層が環境分野への関心を深めるための働きかけを行った。今後も、行政主導の取組を行いつつ、各団体及び地域住民と協力し、活動を継続していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自然観察会については、昨年度と比較し、活動回数は減少したものの、流域基本計画で定めた中間目標値を達成することができた。</li> <li>●水生生物調査の普及啓発活動、出前講座、指導者研修会、高校生を対象とした環境業務セミナーを引き続き実施し、環境教育の推進や次世代の人材育成に取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●団体ごとの活動状況に差があり、団体間の意識統一が難しい他、会員の高齢化が依然として課題となっており、次世代の人材育成が引き続き求められる。</li> <li>●多くの団体が清掃活動を継続して実施しているものの、計画で定めた中間目標値(令和3年度時点で活動回数510回)の達成は困難な状況である。</li> <li>●さらに、清掃活動や自然観察会については、今般の新型コロナウイルス感染症の影響により、例年実施していた活動を中止することとした団体が見られ、それにより、活動回数は前年度と比較して、いずれも減少した。</li> <li>●清掃活動の中間目標値については、数値の修正が必要ではないかとの意見が流域協議会において寄せられており、目標値の早期見直しを検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●流域協議会を開催し、取組状況等を報告してもらい、団体間の情報共有を図る他、課題である清掃活動回数の目標値の見直しについても、流域協議会を通じて目標値修正の可否を検討していく。</li> <li>●水生生物指導者研修会や学生向け環境セミナーを引き続き開催することで、環境教育の推進や次世代の人材育成のための取り組みを継続していく。</li> <li>●環境セミナーは例年高校生を対象に開催していたが、今年度からは新たに中学生を対象としたセミナーを開催し、進路選択を控える学生に対する普及啓発に、より一層取り組んでいくこととしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●県環境保全活動知事表彰                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・洋野町立向田小学校(令和2年度、環境保全部門)</li> </ul> </li> </ul>	42	242
二戸	カシオペア連邦流域ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●健全な森林づくり                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・いわての森林づくり県民税を活用した「県民参加の森林づくり促進事業」の一環としてカシオペアフォレストスクール事業を実施し、森林学習会(13校、18回、児童延べ427名)開催に講師派遣等の支援を行った。</li> </ul>                     地域けん引型林業経営体の育成、林業労働者への指導・支援、林業グループの活動支援を行った。今後も同様の取組を継続する。</li> <li>●環境学習の推進                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・管内小中学校全てにおいて、校務分掌に環境教育を位置づけ、水質調査・森林学習・植林・クリーン清掃等の活動を取り入れ、学習を深めている。</li> </ul>                     特に、森林学習と水生生物調査の取組には環境団体と行政(県・市町村)が連携して支援している。例年、地元民間の環境団体との共催による「環境フェスティバル」及び地元高校生を対象にした「不法投棄事業に係る出前授業」を実施していたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止した。今後も環境学習の推進に取り組んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の森林や河川等に関する学習が管内の全小中学校で取り組まれているなど、地域の自然環境を生かした環境学習が推進されている。</li> <li>●水生生物調査や公共用水域水質測定の結果、管内河川では良好な水質が維持されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各団体とも環境保全活動を継続・持続して実施しているが、反面、活動内容の固定化が見受けられる。</li> <li>●環境フェスティバル及び出前事業について、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を考慮した実施方法等について検討が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●継続して実施している効果ある活動は、持続させる。</li> <li>●情報の共有化を図り、連携し協働することにより、効率的かつ効果的な事業の実施や支援に努める。</li> <li>●多様な年齢層に環境への関心を持ってもらえるような取組の推進に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●県環境保全活動知事表彰                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・カシオペア環境研究会(令和2年度、環境保全部門)</li> </ul> </li> </ul>	21	35